

歌遊大会



古今未曾有の大震災そして全く先の見えない原発事故、電力不足による節電が呼びかけられ、方々で行われる歌謡大会も自粛ムードが盛り上がりつつあります。当協会でも恒例の歌謡大会は今年度は自粛することに、

その変わりとして山梨県の両国屋で歌遊大会を開催したところ、大勢の参加者があり、盛大にそして大変楽しい一日を過ごすことが出来ました。

会長も大張り切り



藤まさるさん
時羽ひとみさん
大熱唱

藤まさるさんは両国屋の親戚になられるとか
横浜支部の創設を期待しております。



古屋ひろ子先生教室
からも大勢さん参加



エムティールレコードの皆さんと両国屋主人

エムティールレコードの社長さん・スタッフの方も応援に来てくれました。



黄色い花

作詞：時とき絵 作曲：時ふみや 編曲：時ふみや

一、黄色い花が咲いていた
風にゆらゆらゆれていた
幼い頃に 兄さんが
遊んでくれた丘のうえ
黄色い花が咲いていた

二、黄色い花が咲いていた
いつか帰って来た兄
妹にささげてくれた花
つれて来て 泣いたのを
黄色い花が咲いていた

三、黄色い花が咲いていた
花は年ごと 咲くけれど
優しい兄はもういない
幼い頃の思い出は
黄色い花と 兄の姿



黄色い花
作詞：時とき絵
作曲・編曲：時ふみや

ふみや唄 DVD
Nihonkayoukyukai
社団法人 日本歌謡協会 企画宣伝部

野良猫のタンゴ 三毛のオス猫は超希少価値

聖跡桜が丘近くの多摩川
辺りの草原に汚い今にも死
にそうな猫がいて、上から
カラスの野郎が狙っている
みたいで可哀そうになり、
家に飛んで帰る、サバ缶と
消毒用のハープスプレーを
持って駆けつけました、
サバ缶を与える、やはり
空腹だったようでガツガツ
食べますが一部もどしてし
まうような状態でした。
翌日キャットフードを買
って行き、与えて見ました
が食べません、満腹なのか
キャットフードが嫌いな
か、でも前日よりは大分
元気になっていたので安心
しました。その後何日か通
つていますが、野良のく
せに人を怖がりませ

飼い猫が捨てられたのかも
私の田舎では猫はどれ
も「チャコ」と呼びます、
あそこに行つてチャコ・
チャコと呼ぶと出てくる
ほど懐いて来ました。
ところがところがである
家内が三毛の雄は珍しいと
のこと、調べて見たところ
なんとなんと本当に希少
価値があり中には五百万
以上するものもあるとか。
早い者勝ち！河原に行つて、
チャコ・チャコと呼んで
みてはいかが？

物好き太郎

カラスが何を狙ってる？



会長婦人：水澤智江さん

一、思い切れない 人だけが
運命に流され 消えた人
日暮れに泣きます カモノ鳥
好きと書いてる 砂文字が
思い出させる
あゝみらの震災無情

二、舟は出て行く さよならと
あはしは、の手を 握りしめ
どうにもならない、の胸に
忘れられない、想い出が
波に砕ける
あゝみらの震災無情

三、二度と帰らぬあの頃が
面影ばかりの 遠い人
笑顔の姿が いじらしい
涙ぐみながら あの人に
願ひごかぬ
あゝみらの震災無情

みらの震災無情
作詞：水澤智江



日本列島ソング
作詞：水澤良則

三月十一日に発生した
古今未曾有の大震災・未
だ収束の見えない原発事
故と、この度被災された
方々に衷心よりお見舞申
し上げ、お亡くなりにな
られた方々に謹んで哀悼
の意を捧げます。

こんな中暴動が起こる
ような事もなく、国中上
げての支援活動など本当
に日本の良さ・優しさが
所々に見られ日本に生ま
れた喜びを改めて噛みし
めています。

この精神は私共の歌の
心に通じるものです、演
歌のテーマは人の感情の
喜怒哀楽の「哀」であり
仏教でいう四苦八苦の内
の「愛別離苦」に通じま
す、苦しい時こそ・悲し
い時こそ、人の情感が過
敏になります、歌の心・
演歌の心は人の心です、
演歌の心を忘れず大いに
唄い次いで参りましょう。

編集責任：伊藤文弥



090-5522-7796

⑧	①
⑨	②
⑩	③
⑪	④
⑫	⑤
⑬	⑥
⑭	⑦

懐かしい遊び・読めますか？

今時の子供の遊びはファミコン等電子ゲームが主流ですが、私たちの頃は簡単な用具を使った色々な遊びがありました。でもこれを漢字で書くのが結構難しいですが読めますか？ 読んでみて左のイラストの番号を書いてみて下さい。

□□□□ 独楽
□□□□ 飯事
□□□□ 手毬
□□□□ 盲子
□□□□ 骨牌
□□□□ 石御
□□□□ 双六
□□□□ 綾取
□□□□ 雪達磨
□□□□ 風揚げ
□□□□ 追羽根
□□□□ 縄跳び